

## きんいろのとけいそう

龍郷町立円小学校 一年 とくしげ おとは

アマミイシカワガエルのテンテンは、しようがっこうにあるおおきなきのあなのなかにすんでいます。ひるは、ねてばかり。ゆうがたになると、あなのそとにでて、きれいなゆうひをみます。

「きれいだな。まるでみかんみたい。なんだかおなががすいてきたなあ。」

テンテンは、いつもは、すぐそばのいけしきいかないけど、そのおくのやままでごちそうをさがしに行くことにしました。すると、いけのちかくでルリカクスに会いました。シクシクないています。

「どうしたんだい。」  
テンテンはききました。

「ぼくは、ラリー。ぼくは、よるがこわいんだ。だってくらくておぼけがそうだから。」

かなしそうなラリーをみて、テンテンはいいことをおもいつきました。そして、テンテンは、

「ぼくのほしを一つあげるよ。そしたら、あかるくなつてこわくないだろ。」

といいました。テンテンのせなかには、きんのほしが十

こあるのです。おおよるこびのラリーは、

「いいの。でもたいせつでしょ。」

とききました。テンテンは、

「いいよ。たくさんあるからね。」

といいました。ふたりは、いつしよにごちそうをさがしに行くことにしました。

ふたりが、やまのいりぐちについたとき、くろくてまいるものからシクシクなきごえがきこえてきました。よくみると、それは、アマミノクロウサギでした。ふたりは、しんばいそうに、

「どうしてないているの。」

とききました。アマミノクロウサギは、

「わたしはクウ。よるのやまは、こわいの。それは、ハブがでてくるから。」

ブルブルふるえるクウをみて、テンテンは、またいいこととおもいつきました。

「ぼくのほしをひとつあげるよ。そしたら、そのひかりにハブもおどろいて、とおくににげていくだろう。」

ラリーもそれをきいて、

「なるほど、それはいいかんがえだ。」

といいました。クウは、とてもよろこんで、

「ありがとう。でもこんなきれいなもの、もつたいないよ。」

「いただきます。でも、テンテンは、  
「だいじょうぶ。まだまだあるからね。」  
といました。クウは、

「ありがとう。おれいに、おいしいごちそうまでのちか  
みちを、おしえるよ。」

「いいました。クウは、やまのいりぐちのあなにはいつ  
ていきました。ふたりもあとをついていきました。する  
と、すぐにでぐちがみえてきました。あなをでて、ふた  
りは、

「わあ、すごい。」

とさげびました。そこには、きれいなかわがながれてい  
て、すぐそばに、たくさんのとけいそうがなっていました。  
た。

「わあ。いいにおいだな。」

テンテンとラリーは、おなかがグーとなりました。する  
とちかくからシクシクなくこえがします。そこには八び  
きのホタルがいました。

「どうしたんだい。」

三にんはしんばいそうにききました。すると、ホタルは、  
「ぼくは、ホタルのワーク。ぼくたちきょうだいのおし  
りがひからないんだ。これでは、ほかのホタルたちか  
らなかまはずれにされてしまうよ。」

八びきのホタルは、かなしそうです。テンテンは、しば

らくかんがえてからいいました。

「ぼくのほしをあげるよ。ちやうど八このこっているか  
らね。」

ワークはすこしおどろいていいました。

「いいのかい。たいせつなほしだろう。」

クウもしんばいそうにいいました。

「テンテンのぶんが、ぜんぶなくなっちゃうよ。」

すると、テンテンは、いいました。

「ほしがなくなっても、ぼくは、カエルだからへっちゃ  
らさ。」

ワークたちは、ほしをテンテンからもらっておおよろこ  
び。ピカピカきれいにひかるおしりが、きにいりました。

「ありがとう。おれいに、さいこうのごちそうをあげる  
よ。」

とワークはいうと、きのてっぺんをゆびさしました。そ  
こには、キラキラひかる、きんいろのとけいそうがあり  
ます。

「さあ。ぼくのでばんだね。」

ラリーがとんで、きのみをとってきてくれました。テン  
テンは、ガブツときんいろのとけいそうをたべました。  
ふしぎなあじでした。すると、テンテンのせなかが、ピ  
カピカひかって、きゆうにあかるくなりました。

「わあ。すごい。きれいだなあ。」

ラリーもクウもワークたちも、うつとりと、テンテンの  
せなかをみています。テンテンのせなかには、まえより  
もピカピカきれいにかがやく、おおきな十一このほしが  
できました。

